

能登獅子舞映像アーカイブ伝承及び魅力アップ事業

指導教員 金沢大学人間社会学域地域創造学類 教授 山岸雅子

参加学生 小野優希・齊藤彩音・野村唯奈・北條翔大・吉田麻耶・瀬川明日香

1. 活動の成果要約

少子高齢化が進む中、中能登町で受け継がれている獅子舞が今後も地域で継承されていくには、若い世代に関心をもってもらう必要がある。本活動では、獅子舞の魅力を伝えるべく映像制作を行った。多世代の自然なつながり・交流の中で獅子舞が受け継がれていることが、獅子舞の魅力につながるのではないかと考え、獅子舞に携わるさまざまな年齢や立場の人にヒアリングし、その結果を映像に反映できた。制作した映像を You Tube で公開した。

2. 活動の目的

中能登町では多くの地区で季節の節目に祭りが行われ、獅子舞をみることができる。長く地域の財産として親しまれ、育まれてきた。しかし現在、地区住民の少子高齢化、指導者の高齢化などにより、獅子舞の後継者不足が懸念され、存続が危ぶまれる状況にある。そのため、次の世代に受け継いでいけるよう、特に若い世代の関心を向けるしかけが求められている。この活動はそのひとつとして、大学生の視点から獅子舞の魅力を再発見し、映像として記録すること、制作した映像を発信することを目的とする。

3. 活動の内容

毎週、大学ゼミ室での定例ゼミをベースとし、以下のような流れで活動を実施した。定例ゼミでは、進捗状況の報告、意見交換を主に行い、中能登町では、主として地域の関係者との打合せ、調査、撮影を行った。

(1) 事前学習/課題の確認 (6～7月)

メンバーにはこれまで獅子舞に馴染みのある者はほとんどなく、中能登町や能登獅子舞に関して、文献・資料等で学習し、時間をかけて理解に努めた。事前学習の後、中能登役場にて、関係者と顔合わせし課題を確認した(6月17日)。以上をふまえ、中能登町において獅子舞を次代に伝えるための具体的な方策について検討した。

(2) 専門家による講義、撮影地選定 (7～8月)

能登獅子舞の専門家の講義、撮影方法や映像デザインに関する専門家の講習・実習を受け、これらについて理解を深めた。撮影対象地区については様々な条件等を考慮し、新興住宅地でこれまで獅子舞の経験がなく、新たに始めることを検討している地区と、長年獅子舞が受け継がれている小竹地区との2地区に絞った。中能登町役場企画課職員、獅子舞専門家、天日陰比咩神社祢宜(スローターリズム協会長)等、地域の関係者の意見を聞き、最終的に撮影対象地区を小竹地区とした(8月23日)。

(3) 撮影計画、撮影内容検討、練習風景撮影 (9～10月)

主たる撮影は、小竹地区の秋祭り(10月12日)に実施し、制作した映像は奉祝大祭(11月10日)で披露することとした。映像の目的、イメージ等について議論を重ね、撮影内容を決定し具体的な計画を立てた。関係者、対象者へ撮影許可を得た後、小竹地区の秋祭りに向けた練習風景と、練習の合間に子どもたちへのヒアリングを実施しその様子を撮影した(9月25日,10月1日,10月6日)。



写真1 獅子舞専門家の講義



写真2 獅子舞練習撮影打合せ



写真3 獅子舞練習風景の撮影



写真4 北陸中日新聞記事 (2019. 7. 25)



写真5 北陸中日新聞 (2019. 10. 3)

(4) 撮影計画・撮影内容の再検討 (10月)

当初は、秋祭り当日、獅子舞が動き出すところから夜に戻り、祭り終了後の花開きまでを追っていき、合間や終了後にヒアリングを予定していた。映像もそれに合わせた構成を考えていた。しかし秋祭り当日、台風19号により獅子舞の巡行が中止となり、計画の変更を余儀なくされた。その後、翌日(10月13日)喜楽館前広場で演舞のみが行われることが決まり、急遽13日に撮影をすることとした。同時に映像の内容、構成の再検討を行った。

(5) 演舞・ヒアリング撮影 (10月)

喜楽館前広場に地区の方々が大勢集まった中、獅子舞の演舞が行われた。まだ台風の風が残る中で、撮影はうまくいかない面もあったが、獅子舞の演舞、およびヒアリングの様子を撮影した。ヒアリングは、獅子舞に携わる小学生、高校生、大学生、大人、今年初めて参加する人、小竹地区出身で他市在住の人など、様々な年齢、立場の人に協力いただき、了解を得た後実施した。

(6) 映像編集 (10～11月)

奉祝大祭(11月10日)での披露に間に合わせるべく、撮りためた練習風景、演舞の様子、ヒアリングの様子の映像を、再検討した内容、構成に合わせて、中能登町役場にて編集作業を行った。技術的に多くの部分で中能登町役場駒井氏に頼り、また教えていただきながら編集作業を行った。

(7) 映像の公開 (11月)

天日陰比咩神社で奉祝大祭が行われ、(仮)映像を公開した(11月10日)。獅子舞に携わった人を中心に、地区の方々に映像を見ていただいた。追加でヒアリングを実施し、その様子を撮影した。



写真6 映像初披露の様子



写真7 映像を見る地域の方々



写真8 ヒアリングの撮影の様子

(8) 映像修正 (11～1月)

追加の映像を含め全体の修正を行い、You Tube 上で公開した。



写真9 制作映像のスクリーンショット

(9) 報告書作成 (1～2月)

一連の活動を報告書にまとめた。

構成は以下の通りである。

第1章 研究の拝啓・目的・方法

第2章 活動概要

第3章 中能登町の概要

第4章 獅子舞の概要

第5章 中能登町の獅子舞保存

第6章 獅子舞の現状と課題

第7章 アーカイブ映像について

第8章 総括

報告書作成を通じて、活動を振り返り、今後の課題について確認した。

4. 活動の成果

- ・中能登町小竹地区の獅子舞の魅力を伝えるべく映像を制作し、You Tube で発信できた。
- ・地域に受け継がれてきた獅子舞を、次代に受け継ぐことの意義を知ることができた。
- ・中能登町小竹地区の獅子舞に関わる人たちの、獅子舞を楽しみながらも真剣に取り組む姿勢、今後も担っていく意気込みなど、獅子舞への思いを知ることができた。
- ・中能登町小竹地区の獅子舞は、家族、友人、世代を越えたつながりの中で、継承されていることがわかった。

- ・ゼミで検討を重ねてきたことが、様々な都合で予定どおりには行かない場面が何度かあった。学生の力不足によるものもあるが、状況の変化にすぐに対応し、可能な限りリカバリーできた。この経験は活動の大きな成果であった。

5. 次年度の計画

今年度の活動では、前述のような成果を挙げられたものの、いくつかの課題が残されている。台風や時間的な制約に因るものであったとはいえ、秋祭りでの獅子舞巡行、獅子舞を担う方々を丁寧に撮影すること、地域の多くの方々の意見を把握するなどの活動ができず、それらを映像に反映できなかったことから、制作した映像は、当初構想していたような内容や水準には至らなかった。映像の活用方法などについても、十分検討し実行することができなかった。さまざまに試行錯誤したが、結果的に学生の思いと地域の思いやニーズをすり合わせることに、若者目線で地域に新たな見方を示すことは非常に難しいことを実体験できた。ゼミ活動としては終了するが、これらの経験を活かしながら、今後も中能登町や獅子舞に関心を持っていきたい。

6. 活動に対する地域からの評価

獅子舞の映像制作を通じて、地域の方と学生が一緒になって、後世に受け継いでいくために、お互い知恵を出し合い、交流できたことが成果であった。また、地区の方々の声をアーカイブでき、それを発信できたことも成果である。映像は、学生が感じた視点を盛り込むことができた。しかし、地区の方と話す機会がなく、地区全体の課題としての取り組みに至らなかったことが課題である。